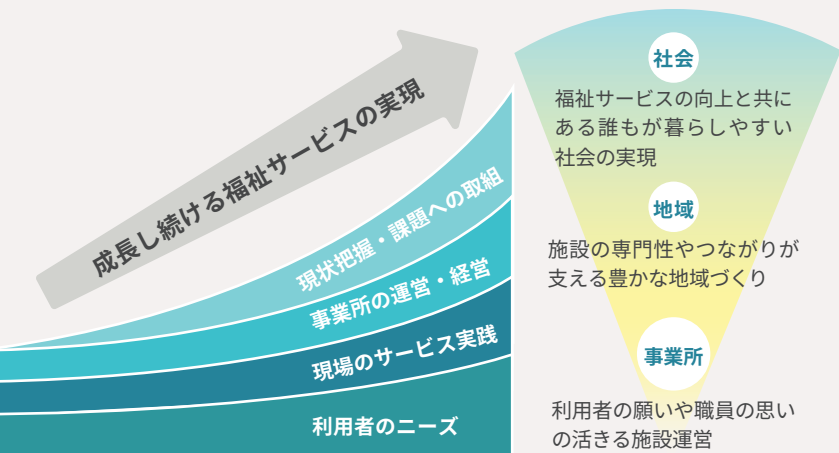


として必要なことは何か

Why



福祉サービス第三者評価 ご案内 INFORMATION

これからを「生き抜く」事業所になるために

What

対象分野

高齢・障害
保護分野



児童分野
(保育所等)



障害者
グループホーム



社会的養護
関係施設分野



評価サポート体制

How

丁寧に対応

一案件ごとに評価にあたる評価調査者と評価機関事務局で一貫してチームを組み、事業所のご意向を伺いながら、丁寧に対応させていただきます。

分かりやすい報告書

職員の皆さまが努力されている取り組み、工夫、姿勢を広く市民の方々にも伝えられるよう、また、さらなるステップアップのために皆さまにご活用いただけるよう、正確でわかりやすい報告書の作成に努めます。

どんなことでもお気軽にお問い合わせください



NPO法人 よこはま地域福祉研究センター

NPO法人よこはま地域福祉研究センターは、2013年に設立しました。私たちは、「人々のしあわせの実現」を全ての取り組みの共通目的として行っています。また、そのプロセスでは、既存のありかたに捉われない柔軟な発想とイノベーターであろうとする勇気を大切にしています。

〒231-0013 横浜市中区住吉町2-17 金井ビル 201
TEL: 045-228-9117 FAX: 045-228-9118
URL: www.yresearch-center.jp/
E mail: top@yresearch-center.jp



東京都福祉サービス第三者評価認証評価機関 認証番号 機構 15-232
かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第 26 号
横浜市指定管理者第三者評価機関 認定番号 25-01
全国社会福祉協議会社会的養護関係施設第三者評価機関 2510-002-02

Third party perspective

受審することの意味

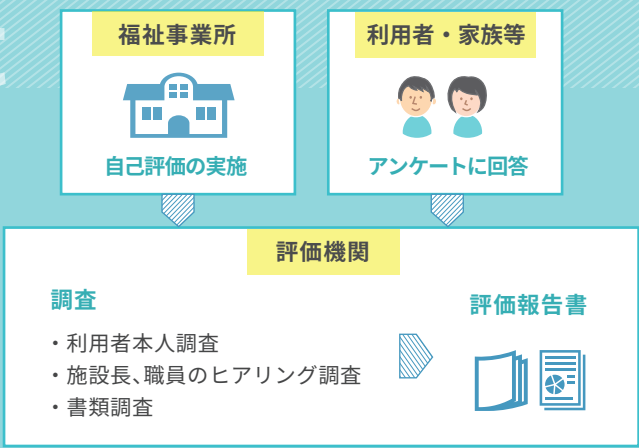
評価の仕組み

私たちの取組姿勢

これからの時代を生き抜く事業所

「利用者へのサービスの質の向上」の実現は、地域での福祉施設としての存在感を育み、そして地域福祉の向上をもたらします。
福祉サービス第三者評価の受審を通じて、4つの点を知ることができます。

- ① 利用者の想いや考えを知る
- ② 職員同士の気づきを得て、今後の組織的な取り組みを知る
- ③ 一般職員と管理者層職員の認識の違いを知る
- ④ 次のステップへの課題を知る



事業所の魅力をより輝かせるための

寄り添う

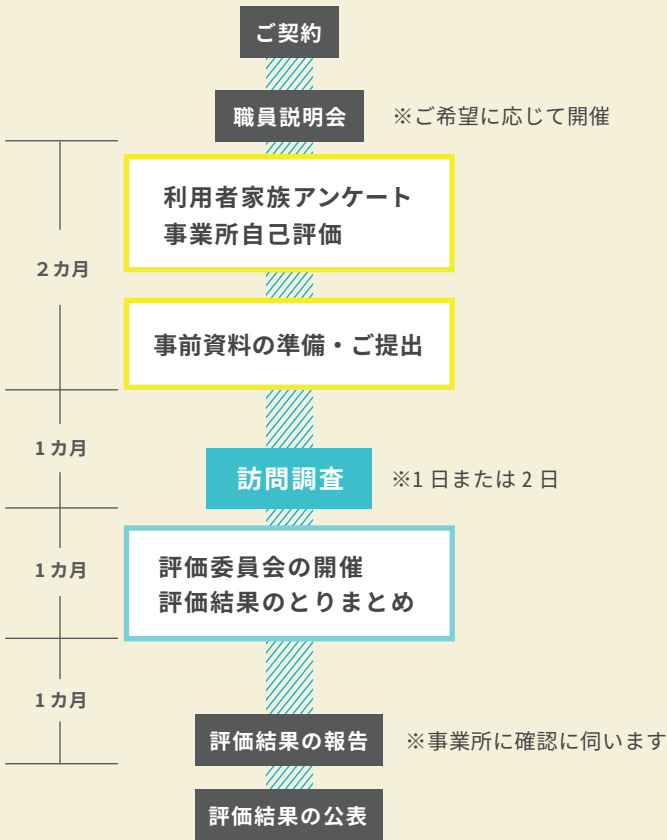
「誠実さ、公正さ」、「専門性、客観性」を持ち、事業所の現状を理解し、職員の皆さまの思いに寄り添うことを重視して評価にのぞみます。

気づき

サービスの質の向上を目指し、日々努力されている職員の皆さまが第三者評価の受審プロセスを通して、取り組みを振り返り、多くの“気づき”を生み出せるよう、支援させていただきます。

1 | スケジュール
Schedule

ご都合に合わせて4～8カ月程度でスケジュールを組みます。



2 | 受審の成果
Achievements

「対話×対話×対話」3つの対話が生みだす受審成果

- 全職員で取り組むからこそその「成果」
施設の自己評価における職員同士、管理者層と一般職員の対話から「沢山の気づき」が生まれます。
- 調査チームで最後まで議論を尽くすからこそその「成果」
調査チームにおける、評価調査者及び事務局の対話から生まれる「充実した報告書」を作成します。
- 事業所の皆様と十分話し合いを重ねるからこそその「成果」
評価開始から最終の報告まで、丁寧な対話から生まれる「安心と納得」をご提供します。

3 | 費用について
Cost

利用者定員等に応じてお見積りをいたしますので、ご相談ください。

児童（保育所等）・ 高齢・障害・保護	40万円～55万円程度（税込）
障害者グループホーム	16万円程度（税込）
社会的養護関係施設	30万円～50万円程度（税込）

4 | 受審後の声
Voice

見直すことはためになる

保育士 Aさん
職員間で分かっていると思っていたことが、分かっていたなかったり、伝わっていなかったりして、細部までの連絡系統を考え直す機会でもありました。また、保育に関しても「見直し」という視点を持つことで、経験者は自分の保育を、新人にとってはこれからの保育を考えることができ、良い勉強になったと思います。

職員・施設の一体感が生まれた

施設長 Kさん
一つひとつの項目を読み上げ全職員で確認してみると、少しずつ捉え方の違いがあることに気づかされました。話し合うことでより理解が深められ、再確認できたことや、漠然と考えていたことが言語化され、より意識することができ、良かったと思います。

普段気付かないことも意識化できた

職員 Sさん
毎日の支援の中で当たり前の様に行っていることを、意味付けをして問われていることが多く、一つひとつの設問で利用者への関わり方、利用者家族との協力の仕方を改めて意識することができました。無意識から意識化することの重要性を改めて感じました。